

新型コロナウイルス感染症海外短信 — ドイツⅢ

2021年4月4日

加久間 景子*

1. ロックダウンの延長

前回の報告でロックダウン期限は3月28日までとなっていたが、その後も新規感染者数は依然増加している。ロックダウン解除の条件としていた人口10万人当たり新規感染者数50人（東京都に引き直すと、1000人/日）は達成されず、多くの地域で人口10万人に対しての新感染数は100から150人以上のところが増えている。中には200人を超えている地域もある。この大きな要因は、やはり変異ウイルスの蔓延であり、現在ドイツの新規感染者の70%から75%がイギリス変異性ウイルス患者となっている（フランスは同80%）。これへの対策が盛んに議論されているが、現在のところ明確な解決策は見出せていない。

ロックダウンは、4月18日まで延長となった。従って、前回（2週間前）の規制通り、市町村では非常ブレーキがかかり、殆どの食料品店以外の商店も閉まることとなる。しかし、この段階になると国民の理解も簡単に得られず商業関係者は死活問題となり、連日のように議論がなされている。現在の状況への対策、及び4月18日後も含め、4月イースター後直ぐにでも緊急会議があると報道がなされている。更に、厳しくしていく可能性もある。

2. 検査

1週間一度の無料の迅速な国民皆検査が学校なども含め推し進められている。個人で買い求められるようにする方針であるが、そこまでの品数がなく直ぐ売り切れているのが現状である。筆者も、先週、オンラインで予約し経験したが、5分刻みの予約で20分以内にはメールで結果と証明書が入ることとなる。この検査は、その日24時間の安全性を90%保証するものであり後は自己責任となる。勿論、依然マスク及び距離の保持が求められる。陽性であれば保健所に届けられ、次の検査を強いられる。

その時々感染者等の数字は不確実な面があり、

1日で可能な迅速検査の範囲を広げる等を試している市町村もある。

3. ワクチン接種

ワクチン接種は遅れがちである。例えば、筆者が居住している州では、ワクチン接種への招待の順番を一歳刻みにして接種のテンポを上げる試みも4月8日から始まる予定である。ワクチンは、BioNTech/Pfizer, AstraZenecaの二つである。4月から冷凍温度に関し問題のないAstraZenecaの接種が開業医でも少しずつ始まる予定である。昨日の報道ではBioNTech支給量が増加したとのことであるがこれも不確定である。

先週、ベルリンの病院がAstraZenecaの副作用による「Sinusvenen Thrombosen: 静脈洞血栓症」で、ドイツで9人の死亡が報告され、男女を問わず60歳以下の人へのAstraZenecaの接種が禁止されることとなった。また、現時点では、ドイツ、オランダ、カナダ、フランス等で同じ禁止令が出ているがこの先増える可能性もある。イギリスでも副作用者が30例あり、7人の死亡者が認められているが、（開発国の立場があるのかも知れないが）件数が少ないとして対策は発表されていない。

変異性ウイルスに対してはワクチンしか対応策がないにも拘らず、当初65歳迄への接種と言われていたのが覆ることとなり、国民の不安は大きい。その中でも、60歳以上を優先してAstraZenecaを接種することで、その順番の調整で大騒ぎになっている。

ワクチンの種類を選ぶ事は公にはできないが、作用の危険性で（特に若い層でのピルとの同時使用！）避けたい場合は選択可能となるが、後回しとなる。

なお、5月頃からJohnson&Johnsonが入ってくる可能性もある。現在、Moderna社製は絶対量が少ない様であるが、理由は不明である。

（以上）

* 在ドイツ音楽家。なお、本稿は、加久間景子氏からの情報提供を本財団理事長光多長温がまとめたものである。